

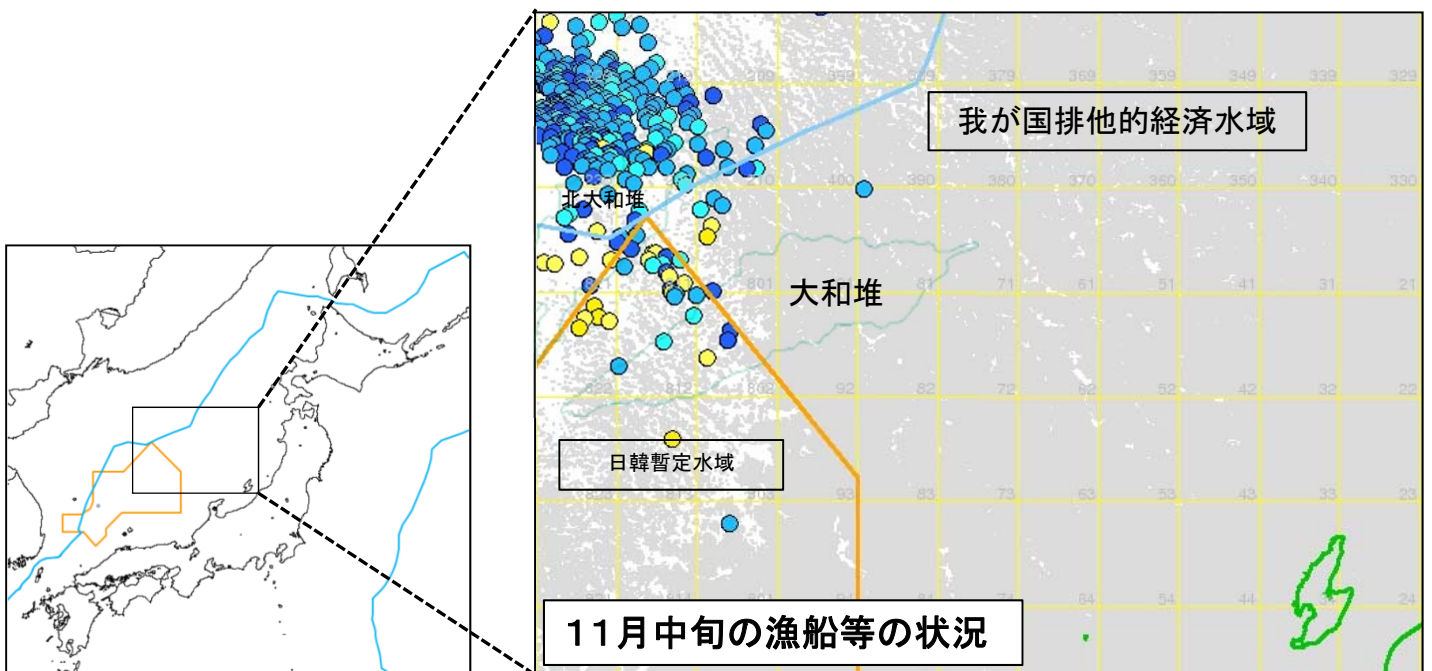
日本海大和堆周辺水域における外国漁船への対応状況について

- 日本海の大和堆周辺水域は、我が国の漁業者によりカニ漁業やイカ漁業が行われており、重要な漁場となっています。
- 同水域の周辺では、北朝鮮籍及び中国籍と見られる漁船が確認されており、一部が我が国排他的経済水域内で違法操業を行っています。
- 水産庁漁業取締船は、我が国漁業者の安全を確保するため、これらの漁船に対応してきています。
- また、本年7月以降、海上保安庁巡視船も加わり、日本漁船が操業している海域を優先に、北朝鮮漁船等を我が国排他的経済水域から退去させるよう、退去警告及び放水措置を実施しています。
- 今後とも、海上保安庁を始め関係省庁と連携しつつ、安全操業の確保に努めてまいります。

<北朝鮮漁船等の状況>

- 大和堆周辺水域で多数確認されていた北朝鮮漁船等については、7月以降の水産庁及び海上保安庁の対応により、8月中旬以降、ほとんど確認されない状況になりました。
- 9月中旬以降、再び大和堆周辺水域において、それまでの木造船に加えて、鋼船も確認されるようになりましたが、厳しい退去警告等により、同水域から退去させ、又は更なる侵入を防いでいます。
- 最新の大和堆周辺水域の状況は、下図のとおりであり、今後、随時更新いたします。

(水産庁作成)



- ・ 図中の○（丸印）は、夜間の衛星画像から光を抽出したもので、全てが操業中の漁船ではなく、航行中の漁船や一般船舶なども含まれる。
- ・ ○（丸印）の色は、明るさの度合いを表す。明るさ：水色<青<黄<橙<赤。
水色～青色は、北朝鮮漁船等小型漁船、黄色は、北朝鮮漁船等中型漁船、橙～赤色は、中国漁船、韓国漁船、日本漁船と推測。